

ii 日南町木材生産事業協同組合（丸太組合） 浅川三郎理事長から

日南町木材生産事業協同組合は、素材生産業者による「低コストで効率的な素材生産」を目的とする事業体です。全国でも珍しいこの取組みは注目され、高い評価を得ています。協同組合が出来るまでの話ですが、日南町は、町面積の約9割を森林面積が占める林業最適地でありながら、素材生産業者の殆どが「一人親方」であり、機械化・効率化への取組は遅れていました。切りだした原木は町内の原木市場に出荷され、町外の木材関係事業所が購入していました。町内の木材加工施設での消費量はまだ少量でした。

平成18年、日南町産間伐材を利用して森林・林業振興と地域の活性化を図る目的で単板積層材(LVL)を製造する(株)オロチが設立され、平成20年より操業を開始しました。日南町の素材生産業者では、共同出荷、共同販売、機械の共同利用などを目的に、平成19年に町内24素材生産業者で任意組織を立ち上げ、平成21年には日南町木材生産事業協同組合として法人化を行いました。特に、オロチ用の材は原木市場を介さず工場へ直送し、規格を定め、価格協定を締結し、定時定量、定品質、定価格の安定供給を行っています。



最近の木材生産事業協同組合の話題について

平成27年度も、新しい林業作業機械を購入して素材生産業者にリースを行っています。平成27年度はロングリーチハーベスタ・グラブ等々を国や町の補助金も受けて購入しました。機材のリースという仕組みにより、初期投資が少なくても新型の林業作業機械が導入出来ます。この事は日南町に新しい林業会社の設立を促し、若い会社に若い人が集う、活気のあるまち作りに役立っていると思います。また、機械化により作業者が高齢化しても仕事の継続も可能となります。

林業で働く人を育てるには、10年近くかかります。日南の林業会社で、10年近く前に高校生から就職した作業者が一人前の仕事が出来ようになってきて利益が出せるようになってきたところもあります。次世代の林業を継続するためにも人材育成が必要で、林業を学べる学校が日南町に出来ればなと、そんな思いもあります。

日南町に元気のある林業会社が存続し続けるように今後についても考えて行きたいと思います。1000年以上続いた日本の「持続可能な森林(林業)」を守る事は私たちの生活を続けていく為にも大事だと思います。

(記者より) 林業の要ともいべき素材生産業者ですが、後継者問題等、厳しい問題に向き合っている現状と、解決に向けた取組についてお話を伺うことが出来ました。取材へのご協力ありがとうございました。

【お詫びと訂正】

第46号 表紙の写真キャプションにて『中石見付近 雪の花見山を見ながら「やくも」が駆ける』と記載いたしました。が、正しくは『下石見付近 雪の大倉山を見ながら「やくも」が駆ける』でした。